ASSOCIATION OF
MUSICAL ELECTRONICS INDUSTRY

# AMEI News

2002年12月５日発行

Vol.20

# MIDIライセンス２級資格者座談会開催

平成１４年１１月９日（土）午後３時より大阪地区のMIDI検定２級ライセンス保持者（過去３年間で累計２１２名）座談会を６名の参加を得、「大阪マイドームおおさか」にて開催致しました。
司会を中田専務理事、福田広報委員長、アドバイザーとして試験官の日本シンセサイザープログラマー協会の大浜理事長、国友副理事長、米谷大阪支部長の出席を得、２級ライセンス保持者の日頃の活躍を中心に活発な、有意義な会話が弾みました、又AMEIに対する要望、今後のMIDI検定試験に対する積極的な提案等、今後の運営に大変参考にすべき意見が多数出されました。（本号に掲載）
この座談会は既に東京地区で２回（１回目９月１４日・ﾐｭｰｼﾞｯｸﾄﾚｰﾄﾞ１０月号に掲載、２回目１０月１９日）開催され、MIDI検定試験のＰＲ、今後の挑戦者への励みに供する目的で、その内容はいずれもホームページに掲載（http://www.midilicense.com）致しました。

## CONTENTS


- 氏名財産権に関するNMRC見解 …… 2･3
- ２級MIDI検定試験平成14年度案内 …… 4
- MIDIライセンス２級資格者座談会 …… 5･6･7･8･9
- 部会長インタビュー …… 10
- NAMMツアー …… 11
- AMEI会員名簿、MIDI LICENSE.COMの紹介 …… 12


AMEI NEWS　Vol.20 / 2002.12. 5
社団法人音楽電子事業協会　機関誌
発　　行：社団法人音楽電子事業協会　事務局
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9
イトービル4F
TEL. 03-5226-8550　FAX. 03-5226-8549
発 行 人：中田　健
編 集 人：福田　誠（広報委員会）
編集協力：株式会社 ラプラス
ホームページアドレス：http://www.amei.or.jp/

# 着信メロディサイトにおける歌手名の使用とパブリシティ権

当AMEIが所属するネットワーク音楽著作権連絡協議会より、2002年9月25日付でプレスリリースを発表しました。ここにその全文を掲載すると共に、そこに至った経緯を簡単に説明します。

## §今までの経緯

**1．2002年6月18日付**

携帯電話用着信メロディの配信サービスを行っている事業者に対して、(社)日本音楽事業者協会と(社)音楽制作者連盟の連名で文書が送られて来た。

**[内容]** アーティストなどの芸能人はその氏名が持つ経済的価値を排他的に支配する財産権を有しているため、この２団体に所属するアーティストの氏名財産権の行使について、協議の機会を持たせて頂きたい。

**2．2002年6月21日付**

日本経済新聞紙上において「歌手名使用料を請求　着メロ配信で表示の場合」と題する記事が掲載された。

**[内容]** 日本音楽事業者協会と音楽制作者連盟は、携帯電話向け着信メロディ配信業者54社に対し、着メロ配信用のサイト上で歌手の氏名を表示する際に所属プロダクションに使用料を支払うよう、18日に申し入れた。同２団体は、芸能人の氏名をビジネスに使う場合は「氏名財産権」に基づき、本人やプロダクションの許諾と使用料が必要と主張。配信業者側はNMRCを通じて対応を協議するとしている。

**3．2002年7月29日付**

日経エレクトロニクス誌上において「歌手名を勝手に使うな　標的は着メロ、AV機器にも」と題する記事が掲載された。

**[内容]** 着メロ配信業者54社に対して音楽プロダクション団体から6月18日付で「要望書」(上記参照)が送られ、その中で「氏名財産権」と呼ぶ権利の存在を主張し、対価の請求をにおわせている。これに対し着メロ事業者はNMRCを窓口として団結し、一歩も譲らない構えである。

注：NMRCは、ネット上で音楽ビジネスを展開する様々な業界団体から成り立っており、当AMEIも加盟しています。また、AMEI著作権委員会の各部会もその活動に密接に関わり、業界の健全な発展に寄与しています。

## §以下、2002年9月25日付NMRC報道資料

### 着メロサイトにおける歌手名の使用とパブリシティ権
### ～パブリシティ権侵害ではない・顧客吸引力の利用に当たらず～

ネットワーク音楽著作権連絡協議会（NMRC/代表世話人　佐々木隆一）は、インターネットを含むネットワークでの音楽利用のための許諾ルール制定に向けた情報収集、研究および関係諸団体間の合意形成を目的として、平成9年8月に発足した任意団体であります。

**1．はじめに**

NMRCはこれまで、インタラクティブ・メディアによる音楽マーケットの健全な成長を願い、音楽コンテンツの円滑な流通ルールの形成を求めて活動してきました。

今般、社団法人日本音楽事業者協会および社団法人音楽制作者連盟（以下、あわせて「両団体」という）は、着信メロディー配信事業者に対し、「アーティストの氏名表示権」なる権利を理由に、着信メロディー提供サイト（以下「着メロサイト」という）におけるアーティスト名の使用については、両団体の許諾を要するとの趣旨を前提とした交渉を要請されています。

この問題は、着信メロディー配信事業に止まらず、インタラクティブ・メディアにおける表現の自由や情報流通のあり方そのものにも影響を及ぼすものと懸念され、NMRCとしても着信メロディー配信事業者の窓口として、両団体にご説明を求めたところではありますが、その主張の内容や根拠につき、何ら明確かつ具体的なご説明はいただいておりません。

従ってNMRCとしては、このような状態が継続し、上記要請のみが新聞紙上等で取り上げられ、着メロサイトが社会からいわれのない誤解を受けるようなこととなれば、ユーザーの支持により芽吹き始めた新しい産業の成長を萎縮させ、ひいては着メロサイトによる情報発信や、着信メロディーという新ジャンルの音楽表現およびそれに伴う楽曲の流通を疎外するおそれをきたすこととなるものと考え、この問題に対する議論の端緒を開くべく、NMRCの見解を表明することといたしました。

## 2．パブリシティ権について

「パブリシティ権」は、日本においては、現行法上これを権利として認める規定は存在しませんが、判例により、固有の名声、社会的評価、知名度を獲得し、それによる顧客吸引力を有するに至った著名人はその「パブリシティ価値」の不当な使用を排除する排他的な支配権を有するものであることが認められているものです。

## 3．表現の自由 VS パブリシティ権

しかし、判例によると「他人の氏名・肖像等の使用がパブリシティ権の侵害として不法行為を構成するか否かは他人の氏名、肖像等を使用する目的、方法及び態様等を全体的かつ客観的に考察して、右使用が他人の氏名・肖像等のパブリシティ価値に着目しその利用を目的とするものであると言えるか否かにより判断すべきもの。」とし、著名人に関する論評、批判、紹介等の言論および表現の自由との関係では、氏名・肖像の使用目的が、「『専ら』パブリシティ価値への着目とその利用を目的とする」ものであるかをパブリシティ権の侵害の判断基準とすべきとしています。

## 4．着メロサイトにおける歌手名の使用の態様

この点、着メロサイトにおける歌手名の使用は、着信メロディを求めて着メロサイトにアクセスしたユーザーに対し（１）その求める情報（着信メロディ）の検索を支援する索引情報として着信メロディのデータベース（以下「着メロデータベース」という）に組み込み、または（２）当該着メロデータベースにより入手可能なコンテンツを告知するためのニュース情報として、当該コンテンツと合理的な関連性を有する範囲内で、時宜に応じてサイトのページ上に表示するというものにすぎません。

## 5．楽曲の識別情報としての歌手名の使用

このような、楽曲情報の検索の便宜のための「楽曲の識別情報としての歌手名の使用」は、楽曲という著作物の性質上、世に大量に発表され、同名の曲も多く、ユーザーの側からしても、その題名自体を一々記憶するのは困難である等の事情から、これまでも音楽業界において慣行的に行われてきたものであり、着メロサイトに限られるものではありません。

## 6．着メロサイトでの歌手名使用と「パブリシティ価値の利用目的」

また（１）MIDI音源は、楽曲の演奏情報をフォーマット化した著作物であり、（２）着メロデータベースは、そうしたMIDI音源を大量に選択・収録し、多様な方法で検索可能とするよう体系的に構成した著作物であり、（３）着メロサイトは、ユーザーに対する着メロデータベースへのインターフェイスであるといえます。こうした、それ自体、様々な工夫をこらし、多くの著作物や情報から構成されている着メロサイトや着メロデータベースにおける上記目的での歌手名の使用は、その使用目的、方法およびその態様（質的、量的見地からしても、またコンテンツとの関連性からしても）を全体的かつ客観的に考察しても、到底「『専ら』歌手の氏名の有するパブリシティ価値ないしは顧客吸引力の利用を目的として」行われているものとは言えず、更には、それらの歌手の推奨または提供を装い、もしくはそのように誤信されるおそれを生じさせているものともいえません。

更に、このような着メロサイトによるコンテンツ提供は、社会の重要な法益である表現の自由や音楽流通の促進に係るものであって、「パブリシティ権」に関する日米の判例を渉猟しても、到底、このような使用を「パブリシティ権」の侵害にあたるものと解することはできません。よってNMRCとしては、「パブリシティ権の名の下に、これらを拒絶、統制することは、不当なものとして許されない」ものと考える次第です。

ネットワーク音楽著作権連絡協議会(NMRC)

# 第4回　MIDI検定試験2級実技試験の実施予定

## ◎主催：社団法人 音楽電子事業協会

協力：日本シンセサイザー・プログラマー協会
後援：会場、機材、ソフト当の提供
・アップルコンピュータ（株）・（株）インターネット・（株）オービット・ミューズテクス
・カモンミュージック（株）・（株）ミディア・（株）メガフュージョン
・ヤマハ（株）・ローランド（株）

## ◎MIDI検定試験の目的

発展を続けるマルチメデイア社会の中で、文字や映像等と並び、重要な要素の一つに音／音楽があげられます。この音／音楽の中心的役割を果しているのが、MIDI規格です。MIDI規格は、電子楽器の制御プロトコルとしての活用はもとより、電子音楽のソフトウエア、コンピュータネットワークでやり取りされる音楽データや通信カラオケ、携帯電話の着信メロディの送信データにいたるまで,電子音楽の事実上の標準規格となっています。
このような状況のなか、MIDIを使った音楽制作の現場ではMIDIに関する知識をもち、データの制作や・監修ができる人材が求められています。
2級検定試験では、この様な音楽制作現場で即戦力として活躍できる人材の認定を行うものです。
従って認定試験のレベルは高度な水準を求めています、企業現場に音楽制作のプロとして推薦できる人材の育成と認定を目指すものです。

## ◎MIDI検定2級2次実技試験の実施要綱

・試験内容：MIDIデータ入力及び編集技能の実技試験
機材設定から課題項目制作まで（90分）
・受 験 料：10,000円
・日時及び会場
東京会場（Macintosh）　「アップルコンピュータ（株）セミナールーム」
平成15年2月8日（土）、9日（日）
毎日10時～、12時25分～、14時50分、17時15分～
東京会場（Windows）　「ローランド（株）セミナールーム」
平成15年2月22日（土）、23日（日）24日（月）
毎日10時～、12時25分～、14時50分、17時15分～
大阪会場（Macintosh＆Windows）「マイドームおおさか　8F第１、第２研修室」
平成15年2月15日〈土〉、16日（日）
毎日10時～、12時25分～、14時50分、17時15分～
・応募期間　平成14年12月10日～平成15年1月15日（郵便振込みによる願書）
・合格通知　平成15年3月24日　AMEIホームページおよびmidilicense.comに受験番号にて発表
合格者には個人宛2級ライセンスカードを15年4月中に発送

## 過去3年間累積　MIDI検定2級合格者の実態分析

### ２級取得者　212名　分析表

【性別】

| 男 | 女 | 合計 |
|---|---|---|
| 161 | 51 | 212 |
| 76% | 24% | |

【地域】

| 北海道 | 東北 | 関東甲信越 | 中部東海 | 近畿中国 | 九州四国 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 8 | 113 | 25 | 59 | 4 | 212 |
| 1% | 4% | 53% | 12% | 28% | 2% | |

【年代】

| ２０代以下 | ２０代 | ３０代 | ４０代以上 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 115 | 66 | 27 | 212 |
| 2% | 54% | 31% | 13% | |

【当時の職業】

| 高校生以下 | 専門学校 | 大学生 | 社会人 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 26 | 30 | 110 | 38 | 212 |
| 4% | 12% | 14% | 52% | 18% | |

# MIDI検定　第3回・2級ライセンス保持者の座談会
（平成14年11月9日：大阪会場）

**中田　　健（音楽電子事業協会専務理事）**　今日は遠方よりお集まり頂きありがとうございます。この座談会も３回目を迎え、今回は大阪で実施することになりました。座談会の主旨は、ＭＩＤＩ検定制度とはどういうものであるかをＡＭＥＩ会報誌、ＭＩＤＩ検定ホームページのmidilicense.comの中でＰＲし、ライセンスを取得された方々がどのような活躍をしておられるかを広くお知らせしていくためにお集まり頂きました。もう一点はこれから受験しようとしている方々に対して、今までどんな方が受験し、どんな勉強をしていけばよいのかを経験談を交えながらアドバイスをお願いしたいと思います。そしてＭＩＤＩ検定をより良いものに発展させていくため、社会的価値観や内容について、今後どのようにしていったらよろしいか、試験に対してのご意見を頂きたいと思います。

今日お集まりの皆さんは２級実技試験まで通過されたわけですが、現在まで受験者総数１００００名、３級合格者７０００名のうち２級合格者は２１２名（総受験者数の約２％）とMIDI検定合格者のエリート、皆さんは実社会でも通用する実力をお持ちであると十分言えると思います。それでは始めにご自分の紹介を兼ねて活動状況をお話下さい。

**高桑　　功（マイカル金沢サティ勤務／２７歳）**　石川県金沢市から参りました。現在マイカルの金沢サティＣＤ売場の責任者をしております。売場ではＣＤ、電子ピアノ、ポータブルキーボードを取り扱っておりまして、販売に際してＭＩＤＩの知識が活かされていると思います。先日、米谷さんの４級指導者講座を受講しまして、認定講師資格を取りました。

**山根　裕明（電機メーカー勤務／２７歳）**　仕事は直接ＭＩＤＩや音楽制作には関係ありませんが、音響関連の研究所におりまして、次世代製品に載せる技術などの研究開発を行っています。最近は音楽活動はなかなか時間がなくてできませんが、自分の仕事はやりたいことができていますので、そこにＭＩＤＩなどの知識を活かしていけたら良いと思っています。

**西山　拓哉（パソコン教室経営／２３歳）**　昨年からＤＴＭ教室を岐阜県で開いておりまして、教室は１０月３１日に法人化し、音楽制作業務も行うことになりました。しかし岐阜県内は音楽があまり栄えておらず、仕事がなかなかない状況ですので、今いろいろ探しております。

**中田**　４級指導者の名簿はmidilicense.comに掲載し、４級の受講場所を告知しています。これから反応があることを期待したいですね。

**水野七菜子（大阪府立夕陽丘高校／１７歳）**　まだ高校生で、大阪府に一つだけの音楽科のある夕陽丘高校に通っています。クラシックを主に学んでおり、将来はＤＴＭに関わる仕事につきたいと思っています。大学はＤＴＭ関係を受けようと考えています。個人的にはＣＤを制作して友達に配ったりして楽しんでいます。

**近藤　晶子（くらしき作陽大学講師／２９歳）**　本業は音楽学部の情報音楽専修で勉強中です。ＤＴＭに１７歳で出会ってから、どうしても勉強がしたかったので、東京の専門学校に７年半通いました。それでＭＩＤＩがすごく楽しくなったので、そういうメーカーに出入りできるような仕事がしたくて大学に行き直し、現在は教職を目指してパワーアップを図ろうかと考えています。ＭＩＤＩの２級を持っていることで、大学内で３級、２級を受ける人達に講座を開設したり、この夏は４級講座をショップの店員向けに開きました。

**加藤　雅春（作曲家、成安造形大学講師／３９歳）**　私も岐阜出身で、もとはギタリストでバンドマンでしたが、ＭＩＤＩの黎明期から多重録音で作曲をしたりしていました。その後ＣＭの音楽制作、ハイビジョンの音楽制作、ビデオパッケージの仕事を沢山こなし、それらが今でも本業になっています。並行して５年ほど前からアンミュージックスクールの講師を務めています。それまで学校ではＭＩＤＩとデジタルオーディオの授業を専門にやっていなかったので、私がＭＩＤＩ検定について大騒ぎしたところ学校でかなりやる気になってくれて、今では非常に成果が挙がってきています。また、成安造形大学ではビデオやＣＧを扱う人達に音を扱うための音声の加工編集技術を教えています。

**中田**　今後の抱負やＡＭＥＩに対するご希望がありましたらお聞かせください。

**水野**　一番の夢は大学に合格することです。今年から東京芸術大学に音楽環境創造科というＤＴＭや音響デザイナーといった現代の音楽を学べる科ができましたので、そこを目指して頑張っています。

**米谷　知巳（ＭＩＤＩ検定試験試験官、日本シンセサイザー・プログラマー協会大阪支部長）**　水野さんは中学の頃からうちのコンピュータミュージッククラブＤｅｅでＤＴＭを長くやっているんですよ。

**國友　孝純（ＭＩＤＩ検定試験試験官、日本シンセサイザー・プログラマー協会副理事長）**　私もなぜ水野さんを知っているかというと、雑誌で３級の最年少合格者として取り上げられていたのをよく覚えています。私は専門学校の学生に、中学生でも受かるんだよ、と授業で紹介したことがあって、音楽が好きだったらできるだろうと、刺激にする材料にはとてもタイムリーでした。ところで皆さんの活動の様子を聞いてみると、音楽をやっている人に比べて、ＭＩＤＩで音楽に入ってきた人の方がビジョンがしっかりしている感じがしますね。水野さんは最年少合格者なんだけどコツコツと自分の道があって、切り開いている姿勢がすごい。

**西山**　私は音楽制作会社というわけではないのですが、コンシューマゲームソフトの開発と、ＤＴＰ、ＤＴＭ、それと一般の音楽制作業務を合わせたものをやろうとしています。岐阜でも有名なソフトピアジャパンの中にインキュベーションルームというのがあり、そこに入ったことで活発な活動が可能になりましたが、展開の方法は岐阜では結構難しいものがあります。例えば音楽教室に来てくれた人から、ＭＩＤＩ検定を取ったらどうなるんですかと聞かれました。現時点で私は検定を取ったからどうにでもなるものではないです、と言ったら、それじゃあ取るのはやめようと言われてしまって、結局は生徒さんが来なくなってしまった。やはり検定を取りたい人にはその後どうなる

かが重要だと思いますので、今後ＭＩＤＩ検定を取ることによって、何が有利になるのかがはっきりしてくると良いと思います。

**中田**　大阪は良く分からないのですけれど、東京では着メロや通信カラオケの打ち込みの人材の需要がとても多く、２級合格者の学生の人達（自宅アルバイトを含め）への引き合いが結構あります。大阪はどうなんでしょうか。

**米谷**　大阪も需要はありますよ。地場の会社でもやっている所は多いですし、東京がほとんど飽和状態なので、東京の方から仕事が流れてくるケースもあります。ですから大阪でもＭＩＤＩデータの制作者は需要に間に合いません。私の会社でも絶対的に不足している状況です。

**山根**　私は音響関連の仕事をしていますが、学生時代に専門の勉強をしていたわけではなく、単純に音楽が好きな理由で今の仕事を希望しました。周りの人達は音関係の学問を勉強をして来た人が多いですが、意外とＭＩＤＩを知っている人が少なくて、逆にＭＩＤＩに関することは自分に聞いてくれとアピールしています。

**高森**　正直、皆さんのビジョンがすごくて圧倒されてしまいました。私も音楽を販売する側なので、制作する仕事をしたいと思ってＣＭ制作会社や着メロの会社を受けてみたのですが、まだまだＭＩＤＩ検定の認知度がなくて逆に質問される状況でした。もっと認知されるようになれば、私もそういう仕事がやりやすくなるかなとも思いました。それにもっと検定合格者が競い合えるような場があれば、交流ができるのではないかと思います。

**米谷**　東京や大阪に住んでいないとダメなことは決してありませんから、金沢からでも、自分で制作したデータをいろいろな会社にメールで履歴書と一緒に送り付けると多分リアクションがあると思いますよ。東京は着メロの制作者が飽和しているのではないかと思います。

**國友**　現実的な問題として３級は実務のレベルとしてはまだ入門や入口で、用語を理解している程度の認識であるから、雇う側からみると判断材料とはならないでしょう。けれども２級の実務をパスしていれば、かなりの実力としてアピールがあるはずです。企業側がＭＩＤＩ検定を知っていれば、２級を持っていることはどれだけすごいのかを認知してもらい、スムーズな雇用につながっていくと思います。今はまだ認知度が低いという点が現実的なところであるでしょう。

あと、２級保持者がまだ２００名程と少ないということも認知度が上がらない理由なのでしょう。でもそのうち半分位は音楽の仕事をやっています。そういう仕事をしていない人でも、その位の実力はあるのです。２級がどういうものかを企業側や制作者側に認知してもらうことがこれから大事になります。

**中田**　東京の座談会では、仕事は友達同士から回ってくるとも言っていました。終わった後に名刺交換していましたよ。ＡＭＥＩとしてはできるだけＰＲしていく考えですので、midilicense.comをはじめ、こうした機会を通じて横のつながりができるようなチャンスを作っていけば、もっと世界が広がっていくものと思っています。現在２級保持者はわずか２１２名ですから、相当のレベルの方達である事に違いありません。

**加藤**　抱負や夢については、今は教えることの方が楽しくなってきまして、大学もアンミュージックスクールも共に自分一人で立ち上げた授業ですので、今は楽しくて仕方ないのです。私自身の教える、分かってもらう能力、ノウハウを研鑽していきたいと。具体的には、全くの初心者を育てて２級を合格させること。既に２級１次まで合格しました。でも実技で落ちてしまったので、次にまた挑戦します。最終的にはＭＡまで一人でこなせる人材を育てることが私の夢です。

とにかくコンピュータを使用したＭＩＤＩ入力の技術と知識はミュージシャンは絶対に持っていなくてはダメだと。今どきバンドでは曲ラインを考えたからおまえが作れとスタンダードＭＩＤＩファイルにしてメールで送るのは当たり前だと。だからアンのスクールでもそういう方針でミュージシャンは絶対できないとダメだと。それで選択必須にして、どんなコースでも受けられるようにしました。音楽学校ですから全員、理論は勉強していますが、コンピュータを触ったこともなければＭＩＤＩの言葉も知らない人がほとんど。でも半年後には整然としたセットアップデータを持ったスタンダードＭＩＤＩファイルを作らせるんですよ。そこまで持っていきます。　次の半年でＧＭ２、ＧＭＬｉｔｅ、ＰＣＭの原理、デジタルオーディオの編集、ミキサーの概念、エフェクトの概念や原理と使用法を学び、１年を終えます。ＧＭ２のエフェクトパラメーターのエクスクルーシブデータは全部自分で書けるようにします。ＧＭ２で認定されたコントロールチェンジは全て入力できるようにします。２年目になってＭＩＤＩ検定２級公式ガイドブックの特に読んだだけでは分からないところ、例えばサンプルダンプ、ＭＩＤＩタイムコード、ＭＩＤＩマシンコントロールなど、実演させてデータを見せることで心の底から分かってくれるのです。それはもう楽しいですよ（笑）。

２年目後半はシンセサイズをやります。私は普通の楽器の模倣ではなくてシンセサイズでこそできる音楽をやってきたので、そのノウハウを伝授します。それで西山さんが言われたＭＩＤＩ検定を取ってどうなんのやという話は学校説明会でもよく聞かれるので、想定問答集を作りました。

私はとにかくプロのシンセサイザープログラマーは何ができるのか？という話をします。ループシーケンサーのソフトがいろいろありますよね。オーディオの切り貼りをしただけで音楽を作った気になっている人が多いけれども、それはアマチュアの遊びでしかないから、ギタリストで言うなら譜面は読めない、理論を知らない、コードも十分でない。だからプロのプログラマーはまずミュージシャンであること、ＭＩＤＩデータ入力のエキスパートであること、メッセージに関して専門的知識を持っていて使いこなせること、デジタルオーディオを扱う技術と専門知識が必要、当然アナログ機器も使えないといけない。またミキシングエンジニアとしての能力、映像機器と音響機器の双方の連携ができないといけない、コンピュータと周辺機器も扱えて当たり前、あと放送用の素材を作るための基礎知識、例えばラジオで２０秒のＣＭを作ってくれと言われたらそれは１９・５秒のことだとか、じゃあこれだけ沢山言ったけれども最低でどれだけ持っていたら良いのかとなったら、ようするに２級に合格できる人ですよ、と言います。

２級合格者は２００人強しかいない、それだけ難易度が高く、ＡＭＥＩによって高い技術と知識を持っていることが公式に証明されている資格であることを説明します。プロとして認められるんだなあと納得してくれます。まあこちらもかなり元気のある時でないと説得しきれないことがありますが（笑）。

それで、アマチュアから勉強してＭＩＤＩ検定に合格したら、すぐプロになれるのかと聞かれたら、例え

ば医学生だったら国家試験に受かって、その後インターンの研修を経て医者になるわけですね。だからアマチュアから勉強してＭＩＤＩ２級を取った人はさらに腕を磨いてプロになっていくだろうと、いわゆるインターンの時期が本人を育てていく時間になる。最低限の知識と技術はインターンに必要だと。２級合格者はそれを身に付けているじゃないか。加藤さんはどんな仕事ができますかと聞かれたら、だらだら言うよりも、２級を持っていますから何でもできます、もうこの一言でＯＫですよ（笑）

**近藤**　私は長いこといくつかの学校で電子音楽を学んでみて思ったのが、専門学校は専門性に長けるので、本当にやりたいことをやりたいだけできて目標達成がすごくされやすいのです。対して、資格を取って社会に出る時は有利ですよという大学だと専門的なことと、理論的なことを詰め込まれてしまうのです。音楽の専門知識をせっかく持っているのだから、自分の手でオーケストラとか作れるようになったら素晴らしいじゃないと思うんですけど、なかなか一人ではできません、良いものを見て聴いて、というのが大切だなあと。

こういうものに興味を持ったのが、ヤマハやローランドのデモンストレーションで昔、芸術性の高いリスニングデータがありましたよね、横で音源が鳴っていて、テンポが変わるじゃない。一人でオーケストラをバックに紹介していて、私もやらねばと単なる見てくれから憧れちゃいました。それで今アルバイトで接客販売業をしている中で、やはり一番多いお客様は底辺層の方々です。いろんなハード、ソフトがあって個々の選択肢が幅広いため、お客様を少しでも長く売場に留めておけるように、これを使えばこんなことが楽しめるというのをできれば自分で教室を開いて見せて上げたい。売場にあるものを全部つなげて接客して差し上げたいのですが、現実は無理なんですね。見ただけでこう使うんだというＰＯＰも存在しませんし、初心者の人が見たら何が何だか分からないものが多いと思います。

それで私が出して欲しいとお願いしたいものがあるんです。昔、ヤマハから出ていたビジュアルアレンジャーという、音のスタイルを貼り付けて１曲仕上げるソフトがありました。今後パソコンが学校にもっと導入されるわけですし、売場に親子連れが来てどういうソフトを使ったら良いか聞かれると、実際はすごく難しいものばかりなので、願わくば教育現場にも相応しく、楽にコード進行やパターンができ、自分の声を入れて、かつＣＤに焼けるというソフトが出てきて欲しいですね。

また、大人の方々からの要望を聞いていると、音楽を楽しむソフトを教えてくれる教室がないとよく言われます。私は４級の講座を販売店向けにやりましたが、頭に定着しやすいように４級のガイドブックにはもっとビジュアル的なものが沢山出ているといい。どれを買えばこんなことができる、このカテゴリーの製品はこれですよ、みたいなことが分かると嬉しいです。ガイドブックを改訂する時に、いろんな機材を載せるチャンスがあればぜひお願いしたいです。

あと４級講座を開設してみて感じたことがあります。一人で３００分の認定セミナーを２日間やって、もう死にそうでした！。横のつながりできれば、得意な分野を分担することも可能だろうし、機材をメーカーさんに協力して頂いたり、会場の問題など様々な点で環境が整いやすいと思います。一人の先生が１冊の教科書を丸々完璧に覚えて３００分間も集中するのは、聞く方も辛いでしょうけどこちらも大変。まあすごく楽しいことだし、１日で取れると、ライセンスカードがすごく喜びにつながるのは分かりますが、使いこなせるように何日かに分割できるといいですね。

**大浜　和史（ＭＩＲＯ認定制度研究委員会副委員長、日本シンセサイザー・プログラマー協会理事長）**　分割は全然問題ありませんよ。専門学校の一学期分で３００分を想定しています。一日でやってくださいとは規定していません。

まあそれはそれで集中講義で良かったかもしれないけど、大変でしたね。

**近藤**　横のつながりができれば、今度講座を開くので半分手伝って頂けませんかというお話もできるし、ノウハウの交換もプラスになります。私も母校であるアイデックスミュージックアカデミーの先生方の講義方法を目で見て、教え方はもちろん時間配分や教材の使い方をずっと見てきました。やはり現実の教え方では、例えばサンプルダンプは実際に見せた方が良いとか、ここは理論だからとりあえず覚えて！とか、とても参考になりました。ガイドブックにはビジュアル的な要素のほか、試してみて分かりやすいティップスが載るとより見やすくなると思います。

将来的な抱負としては、学校にＤＴＭなどを売り込んでいく際に、２級の資格を持っていることでお話がしやすくなりますし、聞いて頂きやすくなると思いますが、各学校の先生自身がパソコン音楽＝ＭＩＤＩという、ＭＩＤＩがパソコンを使った音楽につながっているということを訴求しなければなりません。４級の本が「ＭＩＤＩ検定４級対応」と書いてあったので、ＤＴＭ＝ＭＩＤＩみたいな感じで入ってくる人が４級の場合はすごく多いと思います。３級と２級もすごく違いますねと聞かれると、どちらもより内容が付加されて、より楽しいことができるための道具みたいな形で、難しいではなく、楽しいことをするための必須の資格というところをもっとアピールしています。全部の規格をきっちり伝える能力は、ある時期にセミナーをしてもらいたいです。使い回しの方法とか、就職活動も大事ですけど、パソコン音楽を普及していかないとこうした製品や規格は広がっていかないじゃないですか。広げるためにＭＩＤＩ検定４級認定講師を増やしていって欲しい。私は幼稚園などで相談を受けたらすぐ行けるようなフリーランサー的な仕事をしたいのです。呼ばれれば何処にでも行って演奏ができる、音楽が楽しい、ＭＩＤＩは楽しい、将来的には家電製品のこんな所にも使われるでしょうみたいなところにも、パソコンと携帯電話を一緒にして、受験者の人達にダウンロードしたものが電話で鳴る、楽器で鳴る。この中にはシンセサイザーが入っているんですよ、というお話をしたら、ああダウンロードって、データをダウンロードするからＭＩＤＩは音じゃなくてデータなんだというのが理解できるようになるはずなんです。

だから見せ方をもうちょっと柔らかく、そして触れば奥が深くて楽しいというのは、はまった人には１年半ずっと毎週来ていろいろ聴いている人を見るとすごく楽しんでいるのが分かります。ビデオ映像に自分の曲を付けたいという人には、夏休みに１週間、場所を借りて講座ができれば面白いと思いますね。

それからＭＩＤＩライセンスを自分で持っていて思ったのは、何年か前のＭＩＤＩ　ＷＯＲＬＤでライセンスカードを持っていれば無料だったのが嬉しかったです。入場無料が無理ならば、会場の中の講座をライセンサーは無料で受けられるだけでもいい。最新の

ＭＩＤＩ事情などを見せてもらえたらすごくプラスになります。

**大浜**　特典は最初から考えていました。ＭＩＤＩフェアや楽器フェアがあったらＶＩＰルームを設けて、そこに招待しようとか、でも予算の問題で実現しませんでしたね。あとガイドブックの話で、講師の養成講座はまだ開設はしていませんが始めています。指導要項やポイントを、講師になろうとしている方にできるだけご説明するようにしています。４級ガイドの内容について、最初から写真やイラストを増やして構成する考えは確かにありました。でもソフトはどんどん変わっていき、掲載している中で既になくなっているソフトもあります。ある程度長い期間を使おうと思った時に、その辺りはわりと普遍的なものでないと載せられないというのがありました。それ以外にこういう面白いソフトがありますよ、買うんだったらこういうのがお薦めというのは講師のキャラクターだし、それがその学校の特徴や持ち味になっていくと思います。それぞれの先生で工夫して楽しくやってもらうことも大事です。

**國友**　私は４級講座を５０分を８回くらい、少し余計にやっています。教える対象が違うと同じカリキュラムでも教え方が全然違ってしまいます。例えば、ゲーム音楽専攻の学生は、ＭＩＤＩとウェブの両方をやりたいと言います。　映像専攻の学生に１秒間に４４１００回もサンプリングするという話をすると、ゲッと言われます。なぜかと言うと映像は１秒間に３０コマや２４コマでいいわけだから。１秒間に４４１００回もデータをとらなければいけないなんて、だからデータ量を食うんだよ、という話の仕方をしないといけなくなってくる。演奏の学生にはこういう話はしませんね。やっぱり講師の先生もキャラクターで、僕はあの先生に教わったからこうなっちゃったでもいいと思いますよ。ようするに共通のスキルとしてＭＩＤＩに対するベーシックなものを持って、それをもとにその人のオリジナリティを出した音楽観を持っていかないと音楽ばかりはどうしても創造物なので、いくらＭＩＤＩが決まっていても作るものは創造物ですよね。だから今の教え方にあまりこだわらなくても良いと思います。

**中田**　実はＭＩＤＩ規格が誕生してこの１０月に２０年経ちました。来年はＭＩＤＩ誕生２０周年として様々なイベントを計画しており、ＭＩＤＩライセンス保持者を対象にした企画もいろいろ考えています。一つはmidilicense.com（ホームページ）に新製品情報を流したり、皆さんの作品をアップしようと考えています。来年１０月に２００３楽器フェアが横浜で開催されますので、そこでもイベントを計画したいと思っています。

それでは次にＡＭＥＩに対する要望やＭＩＤＩ検定試験そのものに対する意見をお聞かせください。例えば試験会場の機材についてとか、１級を設けたらどうかなどいかがでしょう。

**高柔**　実技試験で穴埋めに関してはよく分かるのですが、間違っている部分を直すのは相当難しかったですね。

**米谷**　おそらく初めてあのデータを見せられて、間違いを探せと言われても無理だと思いますよ。事前に完成データというか、きちんとしたデータが配付されていて、長い時間をかけてしっかりと吟味できるところがポイントだと思いますね。それをきちんとやっているかどうかが、合格するかしないかの一番大きな分かれ目でしょう。多分トラック構成を試験が始まってから確認しているようでは時間は絶対足りません。曲の構成なり、データの配置は頭に入れた状態で試験に臨まないことには時間は足らないでしょう。

**國友**　小節に入れていくのは逆に言うと簡単なんですね。空いている所を埋めるのは簡単ですが、間違いを探すのは難しいけれど、そこがどこまでできるかがポイントになると思います。

**大浜**　品質管理と同じことで、間違えたものを見つけられるかが、仕事としての見極めでしょうね。文章で売られている本の中に間違いがあったら、内容に関わらずおかしいわけです。それはやっぱり品質に関わること。責任を持てるかどうかがプロの信頼なので、そういう意味でもディレクターを目指すことも含めて監修ができるかは一つのポイントに置いています。もちろん入力ができることも含めた上での考えですが。

**米谷**　実際の仕事の中では、制作したＭＩＤＩデータが、一般の人が購入して中身をつぶさに確認できるわけなので、間違いがボロボロあったらプロの商品としてまずい。間違いがあるかないか分からないデータの中から間違いを探さないといけないのがプロですから、探すのはスキルとして必要だと思います。

**高柔**　そうすると受かった人は穴埋めがほとんど出来ているんですか。

**國友**　当然あれで受かった方は穴埋めはもう完璧ですよ。ちょっとしくじってしまって、ペダルのオフがなかったり、ピッチベンドがなんとかとか、そういう人はいたかもしれないけれど、ほとんどの人は穴埋めは完璧ですよ。あと最初の頃はファイルが作れない人がいましたね。最後にセーブするファイルとスタンダードＭＩＤＩファイルの両方を作るのですが、スタンダードＭＩＤＩファイルが最後の最後になって分からないと言う人がいました。でもそこでは減点になっても全体が０点になるわけではありませんし、その人は合格できました。あれを越えたらプロの仕事が出来るレベルであるという認識を２級の方が持って頂いて良いと思います。そういうレベルであの難易度なんだと認識するのが正当なのだと思います。

**大浜**　受験者は一生懸命にやっているから我々試験官もかなり好意的に見ています。スタンダードＭＩＤＩファイルで提出と言っても、それが入っていなかったら元のファイルを見るし、それもおかしかったらバックアップのファイルを見ます。全てを見た上で再チェックもしています。今日の出席者の名前をどうして知っているかというと、採点で全てファイルを見ていて名前を覚えているからなんですよ。

**國友**　採点の最後にはもう一度チェックをします。同じ人だと分からないので何人かで何度もチェックします。回答を一問採点するために３０分から４０分位の時間をかけています。

**山根**　私が実技試験で一番注意したのは、いつも自分が使っている環境にいかに近付けるかという点でした。試験はXGworks で受けまして、これだと割りと簡単に自分の設定にしやすいのですが、自分では今はLogic を使っており、Logic だと試験の際は基本的に自分が使っている環境にすることが不可能に近いので、試験の時は初期設定ファイルをコピーできるようにしたら良いと思いました。

**國友**　確かにそれができれば一番良いのですが、初期設定ファイルを入れることを認めてしまうと、隠れていろんな行為ができることになってしまうのです。つまり試験に使うパソコンに外部からデータが入ってしまうため、不正に対するセキュリティーが持ちきれません。

**加藤**　私はCubase VST を使っていますが、メーカーから最適化のシステムでやっているわけですよね。教え子から試験の報告を受けると、どうも完全な最適化がなされていなかったのではないかとも思えたのです。私はフリーズの仕方などあらゆるトラブルの起こり方を検証して、その上で行っていますので、アレッ、どうなのかなと。現場だとメーカーも知らないようなシステムの不具合が起こり得ますよね。誰かアドバイザーがいたら、もっときっちりするのではないでしょうか、ぜひアドバイザーのような協力者を配置して欲しいです。

**大浜**　合格者の方達がこれから試験運営に関わって頂ければ良いと思います。ぜひお願いしたいです。

**加藤**　ガイドブックでこんなのはどうかな、というのを今日持参しましたので見て下さい。生徒から特に分かりにくいと言われたものがあります。まず２級ガイドブックでＭＩＤＩタイムコードの記述について、非常に合理的な書き方だと思いますが、頭の良い人が頭の良い人向けに書かれているなあと感じました。

３級ガイドブックで２進数、１０進数、１６進数の表を細かく作成・提示（図を示しながら説明）

**國友**　加藤さんのようにこうやって実践しているのを見ると逆に私は安心してしまいます。２級はＭＩＤＩ規格１．０と照らしあわせながらハード、ソフトの規格をかなりチェックしましたが、２級では概論としてどこまで把握してもらいたいかというのが狙いにあります。１００％解かってもらうのでなく、こういうことがあるということを認識して欲しくてガイドブックに載せた部分が多々あって、２級の筆記試験はそんなに難しくないのです。そこまで突き詰めた試験問題は出していません。

**加藤**　かなり夢物語ではありますが、ＧＭの規格は音源方式を問いませんよね。もっと進めて音源方式まで含めた規格が仮にできたら。それこそＰＣＭから、ＦＭから、フィジカルモデリングからひっくるめてすごい音源方式を作って、制御方式のスタンダードが実現したら、まず自分で音色を作って、それから楽曲を作ることをしていくのではないかと考えます。今はかなりのＣＰＵパワーがありますから、近い将来そんなことは簡単にできるでしょうが、そうすれば今の画一的なテクノ風の道具みたいな認識も変わっていくのでは。もっと独創的で自由な音楽制作が見直されるのではないかと思います。もちろんハードがあっても良いと思いますが、これはソフト音源でやるべきではないかと。しかもオープンソースであれば理想的です。

**西山**　２級の実技試験の場所を増やして欲しいという要望があるのですが。

**中田**　実は大変なエネルギーとコストがかかりまして、１会場で５０人以上は受けて頂けるような場所でないと難しい現状があります。機材の確保、試験官の配置などなどとても大変なんです。現在は東京、大阪のみで実施していますが、名古屋を次回のために検討しています。

**國友**　名古屋で実現すると中部地方や北陸地方からアクセスしやすくなりますね。

**中田**　それでは最後に本日の座談会についてご感想をお願いいたします。

**水野**　今日は有意義なお話しを聞かせて頂いて、すごい人達ばかりなので、私ももっと勉強しようと思いました。

**西山**　教室や学校でかなりの成果を上げていらっしゃる方がいらして、私も岐阜県で頑張らなければいけないと非常に参考になりました。

**山根**　今は趣味でやっているということで今日参加させてもらいましたが、すごいことをやっておられる方がいて刺激を受けました。今後も活動の幅を広げてやっていきたいと思います。

**高桑**　どうしても違う仕事をしていると、ＭＩＤＩで制作することがおざなりになってしまいますが、今日はとても励みになりましたので、またやりたいです。後でメールアドレスを交換しましょう。

**加藤**　もう言いたいことは全て申し上げましたので、今日はありがとうございました。

**近藤**　活動している方々の生の声をお聞きして、また先生方が何をお考えなのかを細かく聞くことができ、もうちょっと自分のキャラクターを磨かないといけないと思いました。

**大浜**　座談会は今回で３回目で、全部で２０数名の方が出席されましたから、２級保持者の１割位の方とお会いしたことになりますね。知らない所にいたのかと思ったら結構身近な感じがして、とても有意義でした。楽しかったです。

あと一つ、音楽の世界の中で自分が演奏して、またはレコードを出してといういわゆる音楽業界の世界と、同じく教えるということも音楽の中での携わり方、関わり方があると思いますので、ＭＩＤＩ４級で講座を開いて教えたり、学校で教えていくことも一つの音楽との関わり方だと思います。これは皆さんの工夫で広げていって頂けるとより嬉しいです。３級ガイドブックは１２８ページで2級ガイドブックは２５６ページになってますが、２級ガイドブックでして、あの中に収めるのも大変だった。核にするのをガイドブックにして、より分かりやすいサブ教材なり、アイデアを皆さんで考えて頂き、より発展させていってください。

前回の座談会でＭＩＤＩ検定の認知度を上げるという話が出ましたが、学校の評価が卒業生の活躍で上がるように、ＭＩＤＩ検定の評価が上がっていくのは皆さんのこれからの活動にかかっていると思いますので、そういう方がいらっしゃるんだということを知らしめる役割を担って頂き、これからも頑張って下さい。

**米谷**　今日は中部から関西圏の方がこれだけ集まることができ、すごく頑張っておられるというのがとても印象的でした。ＭＩＤＩ検定はやはり東京の方が中心となりがちですけれども、大阪でも皆さんで集まって、横のつながりが持てるような機会を設けたいと思っております。一つはＪＳＰＡの支部会を月に一回開くことになりました。もしご興味がありましたら、皆さんＭＩＤＩ関係の仕事や活動をされているわけですから、ＪＳＰＡに入って頂いて、一緒にやっていければと思います。

**中田**　それではこれで終わりにしたいと思います。本日はありがとうございました。

# 「ＭＩＤＩ規格検討部会」部会長インタビュー

Ｑ１：　ＭＩＤＩ規格検討部会の目的と現在の活動概要についてお聞かせ下さい

Ａ１：　現在の規格検討部会はAMEIの中ではＭＩＤＩ規格委員会に所属しています。又ＡＭＥＩの前身母体の一つであるＪＭＳＣ（ＭＩＤＩ規格協議会）の時代から、いわばＭＩＤＩに関しては米国の規格管理団体であるＭＭＡ（MIDI Manufacturers Association）と共にＭＩＤＩ規格の仕様策定や派生規格・技術の管理、監修等双方が常に協調して業務を行っています。

活動状況ですが、規格検討部会は、ＭＩＤＩ規格委員会の中にあって、ＭＩＤＩ規格そのものの制定や改訂などの保守業務、ＩＤ管理、規格の利用についての啓豪、普及活動等を行っています。具体的には、Ｃ／Ａ（Confirmation Approval）と呼ばれるＭＩＤＩ規格下の種々の取り決めに付いての仕様検討や改廃の審議、Ｒ／Ｐ（Recommended Practice）と呼ばれるＭＩＤＩ規格を応用したり、ＭＩＤＩから派生した諸事項についての技術仕様やガイドライン等の審議・制定、エクスクルーシブ・メッセージのマニュファクチャーＩＤの登録管理、規格書の刊行やイベント等における展示、他の委員会や関連団体等の刊行物の監修などを行っています。

Ｑ２：　最近のＭＭＡとの具体的な課題がいくつかあるようですが？

Ａ２：　そうですね。制定２０年を迎えるＭＩＤＩ規格そのもの（Ｃ／Ａ）の（単独）改訂は最近では極めて少なく、活動のほとんどはＲ／Ｐの審議に費やされており、Ｃ／Ａの改訂もそれから派生した物がほとんどです。具体的にはＧＭ２やＧＭＬなど日本側の提案がベースになっているケースもありますが、近年とみに増えてきたのが、ＭＭＡからの提案で、新技術や新メディア等のトレンドにＭＩＤＩを絡めたものです。これらは内容的にもＭＩＤＩの範疇にはいるかどうかの判断が難しかったり、利用技術が先進的すぎて電子楽器メーカーが主体の部会メンバーだけでは適否や可能性について追い切れない、と言った問題があり毎度毎度頭を抱えています。このあたりはＡＭＥＩとＭＭＡの会員層の違いが如実に表れていると思います。
これからもＭＩＤＩと新分野との連係に関わる課題はますます増加するものと思われます。

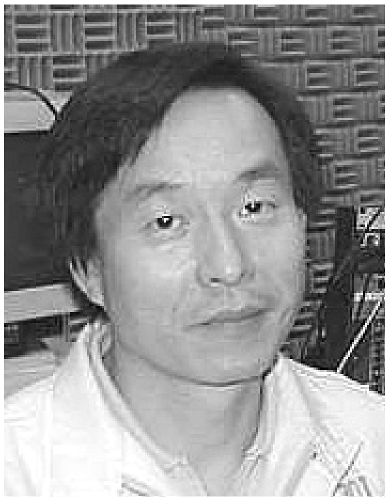
なお、ＭＭＡとは通常はメールによるやり取りを行っていますが、毎年１月にはＮＡＭＭショーの場にてＭＭＡと会合を持つことが恒例になっており、この場にて懸案を処理したりＭＭＡ／ＡＭＥＩ双方の立場や役割分担について協議し相互理解を深める良い機会として今後も活用していきます。

Ｑ３：　検討部会としてのこれまでの活動経過をご紹介下さい

Ａ３：　現状は必ずしも規格検討部会単独での活動ではなく、他の部会やＷＧと協力したり、ＭＩＤＩ規格委員会としての活動も含みますが、９８年末、それまでの薄っぺらな規格書をＭＭＡ版と同等の内容を網羅した物に大幅改訂して発行しました。
その後、ＡＭＥＩ側から提案していたＧＭ２が、種々の経緯はありましたが、２０項目程度の関連規格と共に制定されました。これが近年最大の成果でしょうか。
さらにＤＬＳやＧＭＬなど、時代の変化に応じた規格がその後たくさん審議、制定されています。残念ながら先の規格書以降、諸規格を集大成した物は発行されていませんので、会員はじめ利用者には不便をおかけしているかも知れません。その他には、ちょっと古いテーマですがＭＩＤＩのＪＩＳ化に協力したり、ＧＭ２のユーザー向けガイドラインの制定や、ＭＩＤＩ透かしの検討にも関与しています。最近はＭＩＤＩ検定関係の資料の監修等も行っています。

Ｑ４：　20年を迎えたＭＩＤＩの今後の抱負をお聞かせ頂けますか？

Ａ４：　これまでにお話ししたように、近年は新技術との絡みが増えていますが、実はＭＩＤＩの基本的なプロトコルそのものや、ＭＩＤＩ本来のハード的な接続法は２０年前と何も変わっていません。
一方で、信号そのものの伝送形態は考えられないほど多様化、高速化しましたし、ＭＩＤＩを具現化するための最大の道具であるところのいわゆる「ＭＩＤＩ音源」の能力も当時とは比べ物になりません。これらのインフラを活用しながら成長し、基本的な構成は変わらない形で今後も発展し続けると予想しています。



安永部会長

ＭＩＤＩは音楽演奏情報の伝送ですが、最近の技術では音声の信号そのものが直接伝送できるようになって来て、ＭＩＤＩの役割は終わったと言う声も聞かれますが、キーボード、ドラム、ギターなど、音声の外に演奏行為自体に係わる情報を伝達するというＭＩＤＩの重要性はかえってますます増えるでしょうし、固定された「演奏の結果としての音情報」ではなく、「演奏素材」としてのＭＩＤＩ信号の重要性は今後も廃れることはないと考えます。また、照明の制御など新分野への各種の応用に見られるように、安価で、誰もが簡単に利用することのできるプロトコルとして、確固たる地位を確立していると思います。

Ｑ５：　これからの新たな課題に対してはどの様に取り組まれるお考えですか？

Ａ５：　ＭＩＤＩそのものは充分成熟したと言える段階まで来ているでしょう。これまでの枠にとらわれない新しいＭＩＤＩ、高速なＭＩＤＩという話はありますが、それはＡＭＥＩで言えば応用研究部会の範疇と言うことで、我々としてはこれまでに制定された諸規格の運用、啓豪、普及に努めることが最大の課題だと考えています。
また、新提案の審議・検討においてはＭＭＡとの連係が重要ですが、新規技術や異分野に関わる提案を短時間で的確に判断するための方策など、むろんこれは規格検討部会だけでなく規格委員会全体の課題として、ＭＩＤＩ規格委員会のお力添えをいただきながら解決していく必要があると思います。

Ｑ６：　最後に今後の部会活動の展望と、部会長としての抱負をお聞かせ下さい

Ａ６：　短期的な課題としては、先に述べた規格書の刊行以後制定された諸規格を、少なくとも会員向けに体系的に整理された形で、できればオンラインで提供できるようにしたいと考えています。
中期的には、部会そのものの再構成もそろそろ考えて良いのではないかと思っています。
例えば電子楽器、モバイル系、伝送形態、演奏データ等と言ったカテゴリー別の専門部会をオンデマンドで作って対応するような形態に移行する方がよいのかも知れません。

私は部会長を拝命して４年になりますが、いわば受け身の体勢で、いつも会員各位のご協力に支えられ、尻をたたかれながらやって参りました。今後は率先して何かを提案し実行できるよう、スピードを上げ、ＡＭＥＩの体制強化にも微力ながら貢献したいと願っております。会員各位には一層のご理解とご協力を賜りたく、この場をお借りしてお願い申し上げます。

# 第6回AMEI MIDI規格委員会主催MMA Meeting出席及び NAMM International Music Market 2003ビジネスツアー募集

MIDI規格委員会では、今年もMMA Meeting / NAMMビジネスツアーの参加者募集を下記の通り実施いたします。このビジネスツアーでは、日頃の委員会活動を、米国ＭＭＡ（MIDI Manufacturers Association）メンバーと電子メール等で行っていますが、MMA総会も開催され多くのMMAメンバーも一同に会するこのNAMM期間中に現地にてAMEI/MMA会合を開催し、相互コミュニケーションを図り、理解を深めることを目的としています。
この会合に参加希望されない会員様には、NAMM2003の視察また全日自由行動となっているので、現地での商談などに、このツアーの利用をお勧めいたします。最新の製品、情報に触れることのできるこの機会をぜひお見逃しなく！

---

**催行期間：** ２００３年　1月１５日(水)～１月２１日(火) ５泊７日
**旅行費用：** １７５，０００円
**利用航空会社：** 日本航空
**利用ホテル：** アナハイム：ディズニー・パラダイスピア　他同等クラス（デラックスホテル）
一人部屋追加料金：　７５，０００円
**最少催行人員：** １０名
**申込締切：** ２００２年１２月２０日（金）

その他の都市、期間の延長などのアレンジも可能です。ご相談ください。

| 日 | 月日（曜） | 地　名 | 現地時間 | 交通機関 | 予　定 | 食事 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1月15日（水） | 東京（成日）発<br>ロサンゼルス着 | 17:25<br>09:50 | JL062<br>専用車 | 空路、ロサンゼルスへ（直行便利用）<br>着後専用車にてホテルへ<br>＜アナハイム泊＞ | 夕：機内<br>昼：X<br>夕：X |
| 2 | 1月16日（木） | アナハイム滞在 | | | AMEI/MMA Unofficial-Meeting<br>（NAMM）<br>＜アナハイム泊＞ | 朝：O<br>昼：X<br>夕：X |
| 3 | 1月17日（金） | アナハイム滞在 | | | （NAMM）<br>＜アナハイム泊＞ | 朝：O<br>昼：X<br>夕：X |
| 4 | 1月18日（土） | アナハイム滞在 | | | AMEI/MMA Official-Meeting<br>（NAMM）<br>＜アナハイム泊＞ | 朝：O<br>昼：X<br>夕：X |
| 5 | 1月19日（日） | アナハイム滞在 | | | MMA総会参加<br>（NAMM最終日）<br>＜アナハイム泊＞ | 朝：O<br>昼：X<br>夕：X |
| 6 | 1月20日（月） | ロサンゼルス空港へ<br>ロサンゼルス発 | 午前<br>11:40 | 専用車<br>JL061 | 空港へ<br>空路、帰国の途へ（直行便利用）<br>＜機中泊＞ | 朝：O<br>昼：X<br>機内 |
| 7 | 1月21日（火） | 東京（成田）着 | 16:15 | | 通関後、自由解散 | 機内<br>（軽食） |

**ご注意：この期間は見本市開催のためホテル事情は極めて厳しい状況となっております。お早めの申込をおすすめいたします。**
**日程変更・別手配、通訳の手配などトータルでアレンジさせて頂きますので、ご希望の方はお問合せください。**

**費用に含まれるもの**
（１）日程表に記載した航空運賃エコノミークラス運賃（成田空港発着基準）、空港ーホテル間の専用送迎バス、団体行動中のチップ
（２）日程表の滞在都市ホテル宿泊料金及び税金･サービス料（ツインルームに２名様宿泊）
（３）お一人様スーツケース１個の手荷物運搬料（各航空会社の規定範囲内）
（４）団体行動中にドライバー・ガイドに支払うチップ
（５）米国空港税、成田空港施設使用料
（６）期間中の朝食５回
（７）海外傷害保険（団体掛け）

**費用に含まれないもの（上記に記載のないものは旅行代金に含まれません。その主なものを例示します。）**
（１）個人的性格の諸費用（電話代、クリーニング代、飲物費等）
（２）渡航手続き諸費用（新規旅券申請のための旅券印紙代、新規旅券申請書類代行作成費用等）
（３）超過手荷物運搬料金
（４）現地宿泊ホテルーＮＡＭＭ会場間の交通費
（５）日程表記載以外の国内移動費用
（６）現地オプショナルツアー代金（別途料金の小旅行）
（７）ホテルシングルルーム利用の場合の追加代金（@７５，０００円）
（８）航空機ビジネスクラス利用の場合の追加料金（@別途ご連絡いたします）
（９）任意の海外旅行傷害保険（個々のお客様から依頼のある海外旅行個人任意保険）
（10）ＮＡＭＭ入場券

**旅行企画：**（社）音楽電子事業協会MIDI規格委員会
**旅行主催：**
国土交通大臣登録旅行業第64号
株式会社ジェイティービー

**お問合わせ、お申込みは：**
社団法人音楽電子事業協会 まで
ＴＥＬ　03-5226-8550　ＦＡＸ 03-5226-8549
または　webmaster@amei.or.jp

AMEI
ASSOCIATION OF MUSICAL ELECTRONICS INDUSTRY

# 会員名簿（五十音順）

**あ**
株式会社アイ・オー・データ機器
株式会社アイシックス
アイデックス音楽総研株式会社
ｱｶｲﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙｴﾑｱｲ株式会社
株式会社アスキー
アップルコンピュータ株式会社

**い**
株式会社インターネット
インフォコム株式会社

**え**
株式会社エクシング
ＮＴＴコミュニケーションズ株式会社
株式会社エム研
株式会社エムゾーン
株式会社エンターブレイン

**お**
沖電気工業株式会社
株式会社音響総合研究所

**か**
カシオ計算機株式会社
カモンミュージック株式会社
株式会社河合楽器製作所

**き**
株式会社キューブ
京セラ株式会社

**く**
クラリオンソフト株式会社
クリムゾンテクノロジー株式会社
株式会社グリオ

**け**
ＫＤＤＩ株式会社

**こ**
株式会社コルグ
コロムビア音響工業株式会社

**さ**
株式会社サイバード
株式会社サクセス
株式会社三愛ギガネットワークス

**し**
株式会社シーティーエー
株式会社シーミュージック
J-フォン株式会社
島村楽器株式会社
株式会社JEUGIA
学校法人　尚美学園

**す**
株式会社ズーム
株式会社鈴木楽器製作所

**せ**
セイコーインスツルメンツ(株)
株式会社ｾｶﾞ・ﾐｭｰｼﾞｯｸ・ﾈｯﾄﾜｰｸｽ

**そ**
ソニー株式会社

**た**
株式会社第一興商
株式会社タイトー
大日本印刷株式会社
株式会社タムラ製作所

**つ**
株式会社ツーカーセルラー東京

**て**
ティアック株式会社
株式会社デノン
株式会社電波新聞社

**と**
東映ビデオ株式会社

**に**
ニフティ株式会社
（学）片柳学園 日本工学院専門学校
日本シンセサイザープログラマー協会
日本電気株式会社
（学）電子学園 日本電子専門学校
日本ビクター株式会社

**の**
ノキア・ジャパン株式会社

**は**
パイオニア株式会社

**ひ**
ビクターレジャーシステム（株）

**ふ**
株式会社フェイス
フォステクス株式会社
株式会社フュートレック
株式会社プリマ楽器

**ま**
松下通信工業株式会社
松下電器産業株式会社

**み**
三木楽器株式会社
有限会社ミュージカルプラン
株式会社ミュージック・シーオー・ジェーピー
株式会社ミュージックネットワーク
ミュージックノート株式会社

**め**
株式会社メガフュージョン
株式会社ﾒﾛﾃﾞｨｰｽﾞ ｱﾝﾄﾞ ﾒﾓﾘｰｽﾞ ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ

**も**
株式会社モリダイラ楽器

**や**
ヤマハ株式会社
財団法人ヤマハ音楽振興会
ﾔﾏﾊﾐｭｰｼﾞｯｸﾄﾚｰﾃﾞｨﾝｸﾞ株式会社
（株）ヤマハミュージックメディア

**ゆ**
株式会社ﾕｰｽﾞ・ﾋﾞｰｴﾑﾋﾞｰ・ｴﾝﾀｰﾃｲﾒﾝﾄ
株式会社ユーズモバイル

**ら**
株式会社ラグナヒルズ

**り**
株式会社リットーミュージック
株式会社リムショット

**ろ**
ローム株式会社
ローランド株式会社
ﾛｰﾗﾝﾄﾞﾐｭｰｼﾞｯｸｽﾀｼﾞｵ株式会社

**わ**
株式会社ワキタ

＜以上　正会員会社　　85社＞

＜賛助会員＞
株式会社大阪村上楽器
株式会社博秀工芸
株式会社ミュージックトレード
株式会社ラプラス

＜以上　賛助会員会社　　4社＞

100%
古紙100%再生紙

## MIDI検定試験公式サイト開設のお知らせ

**http://www.midilicense.com**

MIDI検定試験に関する各種情報をより早くお知らせするための公式サイト「midilicense.com」を開設いたしました。このサイトは、MIDI検定制度を通じ、当協会の会員企業と資格保有者、また、資格保有者間の情報交流、更には、MIDI検定試験の受験を予定している一般の方々へのインフォメーションを目的に、従来までの資格者向けの機関紙「Club MID」に代えて開設致しました。資格保有者への情報提供の専用ページも準備いたしましたが、AMEI会員の皆様へはAMEIホームページの会員専用ページへのアクセス用ID及びパスワードと共通に設定いたしましたので会員ページ同様公式サイトにもアクセスいただきたくご案内申上げます。
なお、AMEIホームページ及びMIDI検定試験公式サイト専用ID、パスワードは下記方法でお申込ください。

- 必ずE-mailにてお申込ください。メール送付先　webmaster@amei.or.jp
- メールのSubjectに　AMEI member HP registration （半角文字に限る）
- 本文に　お名前、E-mailアドレス、会社名、所属、TEL、FAXを記入